

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

奥の細道  
むすびの地



令和八年二月度 入賞句一覧

投句数 六百七十三句

特選

名和 永山 選

風制し伊吹を制し武者絵凧

東京都

羽住 博之

季語「凧」は春。特に「武者絵凧」が、この情景を深くさせている。「武者」「伊吹」そして「制し」によつて、ここ美濃の天下分け目の関ヶ原合戦を思い浮かべられる。また、「制し」のリフレインの効果も見逃せない。

城下町水の音より春立てり

養老郡養老町

田中 紫香

「水都大垣」にふさわしい句である。春を迎え、人々が外に出てのんびり過ごす中に、水音が聞こえたのであろう。季語「春立てり」は立春のこと。「水の音より」の措辞により、城下の人々の生活に「水」が重要であること、そして、これから前に進む人々の明るさ、さらには街中の河川の水の流れを讃え、水都大垣を美しく描いている。

梵鐘の余韻は闇へ大旦

岐阜市

田中 淳子

この「梵鐘」は除夜の鐘である。人間の煩悩を消すという鐘の音は「闇」へ。そして、「大旦」つまり元旦を迎えたという、素直に表現したところがよい。一切の余分な言葉を使わず、省略を上手く利用している。「梵鐘の余韻」は、本来は「梵鐘の音の余韻」とされるべきだが、「音」を言わなくてもその音が想像されるのである。

秀逸

神殿の無言の列や淑気満つ

揖斐郡池田町

松田 桂子

凍星や銭湯帰りのゲタの音

愛知県名古屋市

長谷 千恵

ないしよ話睫毛消ゆるなごり雪

不破郡垂井町

野々部 節子

寒明けの光やさしき大地かな

大垣市

水上 洋子

恙なき日々の暮らしや根深汁

大垣市

酒井 和美

陽春の光押しゆくベビーカー

岐阜市

廣瀬 あや子

さざん花よ散り敷きてよし咲きて良し

大垣市

大橋 浩美

寒稽古眉宇にはしかと氣迫あり

岐阜市

田中 淳子

頬上げてほほゑんでみる初鏡

揖斐郡揖斐川町

栗野 みねお

今日一日命延ばして冬落暉

神奈川県相模原市中村

光枝

入選

寄せ植ゑの万両の赤福来たる

大垣市

櫻井 秋櫻

自転車にやつと乗れたよ福寿草

大垣市

高木 佐知子

門松の竹は鋭く邪気払ふ

不破郡垂井町

児玉 昌巳

丙午嘶き高き年明くる

岐阜市

後藤 三恵

未知といふ余白樂しむ新曆

揖斐郡大野町

藤田 涼子

寒昴真摯に生きて逝きし母

養老郡養老町

佐藤 咲楽

けふ一日何事もなく福寿草

大垣市

平野 順一

雪中花病臥の母の傍に咲く

大垣市

小林 研

メレンゲの角ゆるり折れ春きざす

安八郡神戸町

大槻 恭子

取り敢へず無かつたことに春立つ日

東京都狛江市

椎野 一恵

梅東風に枝先ゆるむ神の庭

本巢市

山田 香山

湯かげんを問う母の声ゆず浮ぶ

岐阜市

寺島 鏝太

托鉢の読経は長し寒の風

岐阜市

古田 静子

春寒や仁王の脛の罅深し

兵庫県神戸市

岸下 庄二

ハミングの半音高し木の芽時

群馬県館林市

坂口 いちお

選者吟

啓蟄や乗換駅は地下五階

永山



一般の部